

きらきら星

【第4号】2016.8.1発行

市立旭川病院「総合内科」のご紹介

総合病院における内科診療が、それぞれの臓器別に専門分化する傾向にある一方で、風邪や胃腸炎、尿路感染症をはじめとする感染症や複数の領域にまたがる生活習慣病、健康診断での異常など、必ずしも専門的診療を必要としない疾患も数多く存在します。こうした臓器別専門領域に振り分けられない、よくある病気の診療を専門に行う診療科として、2014年10月に当科は新設されました。

外来診療が中心になりますが、臓器別専門診療を必要としない領域の入院診療や複数の疾患が併存する患者様の入院診療も行っております。臓器別専門科へのコンサルトが必要になる場合は、院内の診療科や他院とも連携して柔軟に対応しています。

また、ワクチン接種の対応も行っております。2016年10月以降乳幼児に導入されるB型肝炎ワクチンを成人になってから接種希望される方や1995年～2007年生まれの方で日本脳炎ワクチンの接種を逃した方（いわゆる積極的勧奨の差し控えの時期に生まれた方）、65歳以上の方の肺炎球菌ワクチン（定期接種のニューモバックスと任意接種のプレベナー13があります）などが多く、その他、海外旅行のためのワクチン接種は種類にもよりますが、事前にご連絡いただければ対応可能です。

今後は総合的視点を持った医師の育成のため、研修医教育にも力を入れていく予定です。

— 総合内科担当医師 —



鈴木 聡



鈴木 啓子



外来担当表

受付時間	月	火	水	木	金
8:00～11:00	鈴木 聡	鈴木 啓子	鈴木 聡	鈴木 聡	鈴木 啓子
13:00～15:00	鈴木 啓子	鈴木 啓子	—	鈴木 聡	鈴木 啓子

※火曜日の診察室は内科7番です
 ※水曜日の診療は再診のみです

休診日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始

「造血幹細胞移植後看護外来」のご紹介

当院の血液内科では、年間約20件の造血幹細胞移植（※1）を行っており、そのうち約半数がドナーから提供される同種造血幹細胞移植（※2）と言われる移植です。患者様は移植後に合併症を一定の確率で発症し、その重症度も軽いものから重いものまで様々です。しかし、多くの患者様は辛い時期を無事に乗り越え、移植後2～3か月で退院となります。

退院後、患者様はいろいろな制限があるなかで日常生活に戻って行かれます。また、移植片対宿主病（GVHD）（※3）を抑えるために免疫抑制剤という薬を飲み続ける必要があるなど、不安や悩みを抱えながら生活しているのが現実です。一方、医師は忙しい日々の外来診療において、そういった患者様の不安や悩みに応えられていないという現状もあります。

そこで、当院では移植後の患者様とご家族のサポートを看護師の視点から支えていくことを目的として、2014年12月に造血幹細胞移植後看護外来（LTFU外来）を開設しました。毎月第1木曜と第3月曜日の午前中に行っています。専門の研修を修了した看護師が担当しており、この看護師は病棟でも移植中の患者様のケアにあたっています。

造血幹細胞移植後看護外来（LTFU外来）では、患者様が日常生活を送る上での注意点を説明し、こんなときはどうしたらいいのだろうかという患者様の相談にお答えしたり、ときにはストレス発散の場にもなります。また、相談の内容によっては、薬剤師・栄養士・理学療法士と連携しながらお答えすることもあります。医師の診察の前に患者様の症状をお聞きし、スムーズに医師の診察が受けられるよう患者様と医師の橋渡しとなれるように活動しています。

造血幹細胞移植後看護外来（LTFU外来）は、患者様だけではなく、ご家族の方も対象としています。また、当院以外で移植を受けられた方も受診することができます。無理せず安心・安全に移植後の日常生活を送ることができるように、よりよい方法を一緒に考え、患者様とご家族のお力になりたいと考え活動しています。

（看護部）

※1 造血幹細胞移植

白血病や再生不良性貧血などを治すため、造血幹細胞が含まれる血液を移植する治療法です。

※2 同種造血幹細胞移植

造血幹細胞移植のうち、移植する血液がもともと患者さん自身のものなら「自家（じか）造血幹細胞移植」、他人からもらう血液なら「同種（どうしゅ）造血幹細胞移植」といいます。

※3 移植片対宿主病（いしょくへんたいしゅくしゅびょう）

臓器提供者（ドナー）から提供を受けて患者さんの体に入れる細胞（移植片）が、臓器受給者（レシピエント）の体を異物として攻撃することによって起こる症状の総称です。



「ふれあい看護体験」を行いました

日本看護協会では、フローレンス・ナイチンゲールの誕生日である5月12日を「看護の日」と制定し、その前後1週間を看護週間としています。その一環として全都道府県で「ふれあい看護体験」が実施されています。「ふれあい看護体験」は、患者さんとのふれあいを通して看護職を目指す高校生の「看護」への理解と関心を深めてもらう目的で行われ、当院では5月13日（金）に高校生30名を対象に実施しました。

体験内容としては、患者さんとのコミュニケーション・リハビリテーション見学・新生児沐浴見学・保清見学・配膳等を病棟看護師と共に行ったほか、白衣試着や模擬患者の体験をしていただきました。

参加した高校生からは、「看護師になりたいという気持ちが強くなった」「患者さんの立場になって考える大切さを学んだ」「患者さんから励まされ、逆に元気をもらった」等、先輩看護師として大変うれしい感想をいただきました。

今後看護職員は全国的に不足すると予測されています。ひとりでも多くの仲間をつくるために、今後もこのような体験を通して看護の素晴らしさを伝えていきたいと思えます。

(看護部)



がん市民講演会を開催します

2人に1人ががんになる時代に

— 私の経験と日本人の生き方について —

講師 医療法人歓生会 豊岡中央病院 会長 田下 昌明 先生



田下昌明先生は、小児科の医師として永年にわたり地域医療の発展に尽力されてきました。20年前にがんを経験し、治療後においても母子関係に関する講演活動・文筆活動を継続されています。この講演会では、医師と患者の両方の視点から、がんに向き合う生き方などについてご講演いただきます。

日時 平成28年8月20日（土）14:00~15:00

会場 市立旭川病院 大会議室（外来棟3階）

対象 地域住民のみなさん、患者さん、ご家族、医療従事者など

参加費 無料（お車の方は、駐車券を会場受付にご提示ください）

申込み 平成28年8月18日（木）までに、お電話、FAX、またはEメールでお申し込みください。

市立旭川病院 地域医療連携課

電話：0166-72-4002 FAX：0166-26-0008

Eメール：renkei@city.asahikawa.hokkaido.jp

大腸ポリープのガイドラインについての解説【第3回】

近年、日本人の大腸がんは急速に増加しており、がん死亡における大腸がんは男性で第3位、女性では1位を占めています。大腸がんによる死亡を減少させるためには、大腸がんとはどのようなものか、大腸がんの「もと」とされている大腸ポリープについての理解が重要です。

2014年に日本消化器病学会から大腸ポリープガイドラインが刊行されましたが、数回に分けて大腸ポリープガイドラインについてわかりやすく解説したいと考えます。お読み頂き、大腸がん、ポリープの理解を深め、消化器内科医師と一緒に大腸がん、ポリープを克服しましょう。今回は第3回です。

Q. 大腸ポリープはどのようにして見つけますか？

大腸ポリープを見つけるための検査としては、便潜血検査が挙げられます。2日間の便を調べて1日でも陽性と判定されれば大腸の精密検査を行います。便潜血検査により、進行がんの90%以上、早期がんの約50%、腺腫などのポリープの約30%を見つけることができます。大腸CT（CTコロノグラフィー）やPET-CTといった画像検査もありますが、これらは一般的に人間ドックなどの個人検診で行われています。

便潜血検査や画像検査で大腸ポリープが疑われた場合、あるいはもともと自覚症状のある患者さんに対して行う精密検査には、注腸X線検査と内視鏡検査があります。

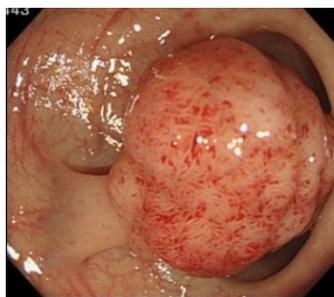
注腸X線検査は、ポリープの形や大きさ、位置などを診断するのに優れていますが、事前の処置が不十分な場合や大腸の管が重なって見づらい場合には正確に診断できないことがあります。また、造影剤による被曝の問題もあります。

一方、内視鏡検査は、体への負担はやや大きいですが内視鏡を肛門から入れることで病変を直接見ることができ、形や大きさだけでなく、血管の模様などから病変の深さや治療が必要かどうかを判定することができます（図）。さらには、内視鏡で治療できる場合にはそのまま摘出することも可能ですし、確定診断のための組織を採取することもできます。

図 内視鏡検査で診断されたがん（左）とポリープ（右）



外科手術が必要な進行がん



内視鏡で摘出可能なポリープ

副院長 消化器内科 齊藤 裕輔

発 行

市立旭川病院広報委員会

旭川市金星町1丁目1番65号 ☎ (0166) 24-3181

経営管理課 内線 5513

地域医療連携課 内線 5373

きらき星について

市立病院があるのは金星町。金星はヴィーナス（美の女神）です。皆さんにきらきら輝いてほしいとの願いを込めました。